

エレミヤ書と哀歌結晶の学び#1:思いやりのある神の思

いやりのある預言者であるエレミヤ 8/31-9/6

Summary: **I.** エレミヤは祭司に生まれましたが、神に

よって召されて、イスラエルの国に対して預言者になっただけでなく、すべての諸国民に対しても預言者となりました。ですから、彼は祭司・預言者でした。

II. エホバは諸国民と諸王国の上にエレミヤを立て、引き抜きそして打ち壊させ、滅ぼしそして倒れさせ、建てそして植えさせました。

A. 引き抜き、打ち壊し、滅ぼすことは、エホバの倒すことですが、建て、植えることは、エホバの高く上げることです。**B.** これはエレミヤの名の二つの意義、すなわち「エホバは高く上げる」と「エホバは倒す」に符合します。

III. エホバはエレミヤを、全地に対して、ユダの王たちに対して、その首長たちに対して、その祭司たちに対して、この地の民に対して、要塞のある町に、鉄の柱に、青銅の城壁にしました。彼らはエレミヤに対して戦いましたが、彼に勝つことはありませんでした。

A. 地上には、神と、神に反対し神に抵抗する者との間に、常に激しい戦いがあります。

B. 神はご自身で直接戦うのではなく、神によって遣わされた神のしもべたちを通して戦います。

C. 神は神の軍隊(エレミヤという名の青年)を遣わして、神に反対する者たちと戦いました:エレミヤは神によって装備されて、要塞のある町、鉄の柱、青銅の城壁になるまでになりました。

IV. エレミヤは神のために語る勝利者でした:

A. 予表の時代において、勝利者は預言者でした。すべての真の預言者は勝利者でした。

B. 神の民の大部分が荒廃していたとき、何人かが立ち上がって神の勝利者となり、神によって打ち立てられた証しを維持する必要がありました。

C. 預言者はまず神の託宣を顧慮し、その託宣に基づいて、ある程度まで、神の権威を行使しました。それは、王ダビデと預言者ナタンに見られるようにです。

D. 啓示録2章と3章の勝利者は、預言者の予表の成就です。

E. エレミヤは勝利者として、反対する証しでした:イスラエルの子たちは荒廃し、エレミヤは神によって召されて反対する証しとなりました/神の民は、神の御前で自分の罪が深いことを認識していませんでした。また、神がバビロンを用いて彼らを罰し、彼らをバビロンに捕らえて行くようすでに定めていたことを、彼らは認識していませんでした。

V. エレミヤ書は、神の思いやりに加えて神の義を語っています。これがこの書の特別な特徴と立場です:

A. 私たちの神は思いやりのある神であり、あわれみと同情に満ちていますが、絶対的に義です。

B. エレミヤ書によれば、神の愛は神の柔和な関心、あわれみ、同情を含んでいます。神は彼の選びの民イスラエルを懲らしめているときでさえ、彼らに対してあわれみがあります。

C. エレミヤ9:10~11と17~19の言葉は、イスラエルがエホバの矯正を受けることについてエホバの感覚を表現しています:エホバはイスラエルを罰していましたが、彼らに対してなおも同情的でした/18節の「私たち」と「私たちの」という言葉は、エホバがご自身を、苦しんでいる民に結び付け、彼らの苦しみの中で彼らと一であったことを示します。

VI. エレミヤ書はまた一つの自叙伝です。この中でエレミヤは私たちに、彼の状態、彼という人、彼の感覚を告げて、彼の優しい心を表しています:

A. 神は優しく、愛し、あわれみ深く、義です。臆病な若者であるエレミヤは、神によって起こされて神の代

弁者となり、神のために語り、神を表現しました。**B.** エホバは思いやりのある神です。思いやりがあるということにおいて、エレミヤは絶対的に神と一でした。ですから、神は預言者エレミヤを用いて神を表現させ、神のために語らせ、神を代行させることができました。**C.** エホバは入って来て彼の偽善的な礼拝者を矯正し、そしてエレミヤはエホバの矯正に反応しました。預言者の反応はとても柔和で、同情的で、あわれみがありました。**D.** エレミヤは神に代わって泣きました。彼の泣くことは神の泣くことを表現しました:エレミヤは泣くことにおいて神を代行しました。

E. エレミヤはしばしば泣き、号泣さえしたので、泣く預言者と呼ばれています:神は彼の民のゆえに悲しみ、傷つきましたが、これらの感覚を持つ者を地上で見いださなければなりません/神の霊がその特別な者であるエレミヤに臨んで、神の感覚をエレミヤの霊の中に置いたとき、その預言者は神の悲しい感覚を発表することができました。

VII. 神が私たちを通して完全に表現されるために、私たちは霊的な感情を持ち、互いに思いやりを持ち、涙をもって神に仕えることができるようになる必要があります:

A. 霊の人は感情に満ちています。私たちは霊的であればあるほど、私たちの感情はますます豊かになります:私たちは、主が私たちの上で働いて、私たちの感覚が細やかで優くなるに至る必要があります/毎回、神が私たちの上で働き、私たちに懲らしめ、私たちを対処するとき、私たちの感覚はさらに細やかになり、さらに鋭敏になります。これは、外なる人を砕くことでの最も深い学課です。

B. 召会生活の中で、私たちは互いに思いやりがある(情け深くある:tenderhearted)必要があります:私たちは信者仲間を裁き、罪定めするべきではなく、彼らに対して親切で思いやりがあり、神がキリストにあって私たちに赦してくださったように、彼らを赦すべきです/私たちがキリストを私たちの命の供給として経験すればするほど、私たちの心はますます優しく(tender)なります。そして、私たちは思いやりがある(tenderhearted)とき、他の人を赦すでしょう。

C. 使徒パウロは涙をもって主に仕え、涙をもって聖徒たちを訓戒しました:もし私たちがどのように泣き、涙を流すかを知らないなら、あまり霊的ではありません。

D. 「多くの患難と心の憂いから、多くの涙をもって」、パウロはコリント人に書き送りました:Ⅱコリント7章でパウロは、コリント人に対する深く、柔和で、親密な心遣いを伝えました。彼の言葉はとても人に触れました。

E. 召会生活の中で、私たちがバカ(涙を流す)の谷を通るとき、神はこの谷を泉とします。この泉はその霊です:私たちはシオンへの大路上で涙を流せば流すほど、ますますその霊を受けます。私たちは涙を流しているとき、その霊で満たされ、その霊は私たちの泉となります。

召会のお知らせと交わり:

①金曜20:00-21:00 エレミヤBSG:申命記は終わっていませんが、エレミヤ書の朝毎復興が8/31(月)から始まるので変更します。

②土曜 8:30-8:45 各地区で朝毎復興の祈り読みの後、8:45-9:30 朝毎のQ&Aを行います。7月と8月前半は、ビデオ訓練やブレンディング集会などで中断していた土曜日の朝の団体の祈り読みとQ&Aを復活させてください。

③9月特別集会のスケジュール修正:別紙を見る。

CP1: 隠れクリスチャンを強いる日本の文化に対抗して、主イエスの御名を公に宣言する。神に反対する者たちと戦うなら、神はあなたと共におられるので、必ず勝利する

OL1: エホバはエレミヤを、全地に対して、ユダの王たちに対して、その首長たちに対して、その祭司たちに対して、この地の民に対して、要塞のある町に、鉄の柱に、青銅の城壁にしました。彼らはエレミヤに対して戦いましたが、彼に勝つことはありませんでした。エレミヤ 1:18 見よ、私は、今日あなたを、全地に対して、ユダの王たちに対して、その首長たちに対して、その祭司たちに対して、この地の民に対して、要塞のある町に、鉄の柱に、青銅の城壁にする。19 彼らはあなたに対して戦うが、あなたに勝つことはない。まことに、私があなたと共にいて、あなたを救い出すからであるとエホバは告げられる。

OL2: 地上には、神と、神に反対し神に抵抗する者との間に、常に激しい戦いがあります。エペソ 6:12 というのは、私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。**OL3:** 神は神の軍隊(エレミヤという名の青年)を遣わして、神に反対する者たちと戦いました。**OL4:** エレミヤは神のために語る勝利者でした。神の民は、神の御前で自分の罪が深いことを認識していませんでした。また、神がバビロンを用いて彼らを罰し、彼らをバビロンに捕らえて行くようすでに定めていたことを、彼らは認識していませんでした。

召会の集会で機能する事柄で、… 私たちはだれにもおののくべきではなく、だれをも恐れるべきではありません。… そうではなく、私たちは機能して主のために語るべきです。

なぜ神はエレミヤを要塞のある町に、鉄の柱に、青銅の城壁にする必要があったのでしょうか？これが必要であったのは、戦いが激しかったからです。王たち、首長たち、祭司たち、この地の民は、エレミヤにとってだけでなく、神にとっても敵でした。これらの敵が神に対して戦っていたので、エレミヤは遣わされて神を代行し、神のために戦ったのです。エレミヤと戦った者たちは、エホバと戦ったのです。聖書は私たちに、地上には神と、神に反対し神に対して戦う者たちとの間に常に激しい戦いがあると告げています。神はご自身で直接戦うのではなく、神によって遣わされた神のしもべたちを通して戦われます。これがエレミヤの時代における光景でした。神は彼の軍隊(エレミヤという名の青年)を遣わして、神に反対する者たちと戦われました。… 今日、主の回復の中で、私たちも反対、罪定め、拒絶に直面しており、私たちも神のために戦わなければなりません。… この戦いにおいて、私たちの武器は神ご自身であり、また聖書に啓示された真理です。

適用: ビジネスパーソン、大学院生編

日本では、豊臣秀吉と徳川家康のクリスチャンに対する大虐殺に始まり、江戸時代(267年間)を通じて迫害が非常に厳しかったので、当時クリスチャンは自分がクリスチャンであることを隠しました。そうしないと無関係な家族や隣人も殺害される可能性があったからです。このような長年の強い迫害の影響で、現在でも信者は自分がクリスチャンであることをあまり公言しません。特

に、地位が高い人で「自分はクリスチャンです」と公言する人はほとんどおりません。これは、日本の文化や伝統がキリストと召会に強く反対していることを証明しています。あなたが自分はクリスチャンであることを宣言しないことは、直接、主を否むことではありませんが、間接的な方法で否んでいるとも言えるのです。ですから、学校や職場で機会があれば自分がクリスチャンであることを告げてください。しかし、これは無理やり不自然な形で宣言するように言っているではありません。あなたが祈りの中で負担を持って祈るなら、自然にそのような機会が与えられます。あなたは日本において、主の御名を人の前で宣言する新しい時代を開拓してください。

マタイ 10:33 しかし、だれでも人々の前で私を否む者を、私も天におられる私の父の御前で否む。1 ペテロ 2:12 また異邦人の間では、卓越した生活態度でありなさい。それは、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの良い行ないを自分の目によく見て、神の訪れの日に、神に栄光を帰すようになるためです。

兄弟の証し: 「私は大手会社の代表としてある工業会の理事(公の立場を持つことを意味します)であった時、私の名前をネットで検索すると、工業会の理事であることが出た後、二番目、三番目以降ずっと神戸に在る教会の責任者であることがたくさん出てきました。これらの情報は台湾などの諸教会の全時間奉仕者や責任者たちが神戸に在る教会を訪問した後、感謝のためにネット上にアップロードした写真、動画、情報でした。私が勤めていた会社(日米の資本が50%・50%の合弁会社)での私の反対者たちはこれらの情報を使って、日本側の親会社の会長と社長を通して日本で最も有名な弁護士会社を使い、反対してきました。弁護士は、私が教会の指導者をやめるように、あるいは否定するように励ましてきました。しかし、私は非常に明確に拒否しました。彼らは私の生活を徹底的に調べましたが、結局、何もなかったのです、『教会の責任者であることは良くない』ということを経験した結論にしました。そしてこの結論を持って、米国の本社のCEOとCOOに訴えました。米国のCEOとCOOは、『この人は日本で最も重要な人である。このような理由で彼を訴えるあなたがたの手は汚い。あなたがたとの日本での50年間の合弁の歴史を終わらせる』と宣告しました。その後、米国本社は約125億円で株を買取り、合弁を解消し、私に反対した人たちを全員解雇しました。実は私は自分から進んで証したわけではありませんでしたが、ネット上での私についての証しに従って、殉教の霊を持って、大胆にイエスの名を否みませんでした。このように証したことが、神が私を守り、会社での業績を祝福して下さり、引き上げて下さった原因となったと思います。証しすれば猛烈な反対があっても、神が共におられるので、私は決して打ち負かされることはありません」。

祈り: 「主イエスよ、地上には神と神に反対し抵抗する者の間に激しい戦いがあります。私は日本における隠れクリスチャンを強いる影響に反対し、自分がクリスチャンであることを大胆に証します。イエスが主であることを公に証し、サタンに損害を与え、主の御名を公に証しする新しい時代を開拓します。それは神のエコノミーのゴール、花嫁の準備に至るためです。アーメン！」

CP2:神は思いやりがあり、絶対的に義である。天然の愛情を十字架に付けて、神の感覚と一つになり、奉仕する

OL1:エレミヤ書は、神の思いやりに加えて神の義を語っています。私たちの神は思いやりのある神であり、あわれみと同情に満ちていますが、絶対的に義です。

OL2:エホバはイスラエルを罰していましたが、彼らに対してなおも同情的でした。18節の「私たち」と「私たちの」という言葉は、エホバがご自身を、苦しんでいる民に結び付け、彼らの苦しみの中で彼らと一であったことを示します。エホバご自身が、彼の民に同情して泣いていました。**エレミヤ 9:18** 彼女たちをせきたて、私たちのために嘆きの声を上げさせ、私たちの目に涙を流させ、私たちのまぶたに水をあふれさせよ。19 まことに、嘆きの声がシオンから聞こえた。ああ、私たちは破壊されている！ 私たちはひどく辱められている！ まことに、私たちがその地を見捨て、まことに、彼らが私たちの住まいを壊したからだ。**OL3:**エレミヤ書はまた一つの自叙伝です。この中でエレミヤは私たちに、彼の状態、彼という人、彼の感覚を告げて、彼の優しい心を表しています。**OL4:**使徒パウロは涙をもって主に仕え、涙をもって聖徒たちを訓戒しました。もし私たちがどのように泣き、涙を流すかを知らないなら、あまり霊的ではありません。私たちは霊の中で生き、魂を器官として用いるとき、涙をもって主に仕えて、聖徒たちを訓戒することができます。

私は霊の中で、私の新しい人の中で生き始め、魂を私の器官とし始めたとき、涙を流し始めました。こうした時、私は私のパースンとしてではなく、私の器官としての魂によって涙を流しました。涙を流したパースンは私の霊でした。…私たちがパースンとしての私たちの魂によってだれかを愛するとき、それは間違いです。それは愛であるかもしれませんが、古い人からであり、依然として肉と関係があります。私たちの魂を私たちのパースンとして愛することは間違いですが、私たちの魂を器官として、私たちのパースンとしての霊によって愛することは正しいのです。私たちの魂なしにだれかを愛することはできません。私たちの霊は、厳密に言って、愛する能力を持っていません。愛するために、私たちは愛する器官を持たなければなりません。愛する器官は私たちの感情であり、私たちの魂の一部分です。私たちの霊はそれ自身では、泣くことや涙を流すことはできません。福音書で主イエスは涙されました。彼は彼のパースンとしての彼の霊から、彼の器官としての彼の魂をもって涙されたのです。彼は魂を彼のパースンとして愛されたわけではありません。そうではなく、彼は彼のパースンとしての彼の霊によって、彼の器官としての彼の魂をもって愛されたのです。…私たちの魂が起き上がって私たちのパースンになるとき、私たちは自分の魂に告げる(祈る)べきです、「愛する魂よ、あなたは過去私のパースンであったが、今日はそうでない。今日あなたは復活の中で私の器官であり、私のパースンは、命としての主イエスをもって再生された私の霊である。この霊は新しい人であり、この新しい人が私のパースンである。愛する魂よ、あなたは今私の器官にすぎない。あなたの立場にとどまり、何も私に提案してはならない。私が愛したり考えたりするとき、あなたは私の愛し考える器官でなければならない。」

適用:奉仕者編

兄弟姉妹に奉仕する時、決して天然の愛を持って仕えてはいけません。あなたの天然の愛が人を助けると考えてはいけません。召会はボランティア活動をする場所ではありません。召会の奉仕は、天然の愛情を十字架に付け、復活の愛の中で、霊の中で、キリストを他の人に分与する奉仕です。

例えば、別の兄弟姉妹が奉仕している新人を見て、あなたがやればもっとできると考えて、奉仕している兄弟姉妹と交わずに、自分で勝手にその新人を顧みようと考えます。このような場合、あなたの愛の中に高ぶり、競争、鈍感などの不純が混ざっています。必ず、一旦留まって、交わりに開き、からだの奉仕を実行してください。交わりにより、自分では気が付かなかったことに気付くことができます。あなたは、あなたの天然の愛情には、高ぶり、偏見などの墮落した要素が混じっていることを認識してください。これらは実際的には交わりにより、十字架に付けられます。更に召会の奉仕はからだの奉仕であるので、他の肢体と組み合わせられて初めて、個人の奉仕からからだの奉仕に移ることができます。また、交わりの前に、メッセージの中の祈りを必ず祈ってください。

姉妹たちの証し: **①**奉仕を始めた頃、からだの奉仕について認識していなかったため、多くの救われた新人を顧み、残る実にすることで失敗しました。いろいろな地区で新人たちが救われましたが、それぞれの地区の兄弟姉妹との十分な交わりがなかったため、彼らの多くは結局顧みを受けることができず、残りませんでした。私自身の天然の愛のゆえに、兄弟姉妹を巻き込まず、自分自身で抱え込んでしまっていました。これらの失敗により、からだの奉仕をする必要があることを学びました。兄弟姉妹との交わりを尊び、個人の奉仕からからだの奉仕に移ることを学び始めてから、残る実を以前よりも多く得ることができるようになりました。交わりの中でからだの奉仕をすることは極めて重要です。

②ある聖徒たちは新人を彼らの天然の愛情で奉仕していたため、新人が段々凶々しくなり、過度に甘えてくるようになることがありました。彼らは兄弟姉妹と交わずに、天然の愛情を新人に注いでいました。その結果、新人たちの墮落した性質が召会生活の中で現れ出て来てしまったのです。例えば、兄弟姉妹の車を個人の益のために凶々しく利用しようとしたことがありました。彼らは自分で車を所有していないので、車を所有することが、高額な購入費だけでなく、ガソリン/オイル代、税金、駐車場代、修理代等の多くの維持費がかかることを知らないため、自分の利便性のために兄弟姉妹の車を利用していいと考えていたのです。

上記の**②**の場合、召会生活が新人たちに霊に従って歩むことを励ますべきなのに、肉に従って歩むことを認めているということになっています。彼らが他人の所有する車を凶々しく自分の益のために利用することは不義です。このようなことを避けるため、召会では車に乗せてもらう場合、非常に安価ですが、乗車料を払うようにしています。奉仕は新人たちが義を実行することで彼らを励ますべきです。天然の愛は新人を駄目にしますが、十字架を経過した復活の愛は彼らを成就します。

CP3:サタンの反対から来る苦難の中で慰めの神を経験して、親密な心遣いを持ち、新人を顧みる

OL1:神が私たちを通して完全に表現されるために、私たちは霊的な感情を持ち、互いに思いやりを持ち、涙をもって神に仕えることができるようになる必要があります。

OL2:私たちはシオンへの大路で涙を流せば流すほど、ますますその霊を受けます。私たちは涙を流しているとき、その霊で満たされ、その霊は私たちの泉となります。私たちが流した涙は私たちのものですが、これらの涙は泉をもたらし、泉は秋の雨、すなわち祝福としてのその霊となります。詩84:5 幸いです、その力があなたにあり、その心にシオンへの大路がある人は、6 彼らはバカの谷を通っても、そこを泉とします。まことに、前の雨は祝福をもってそこを覆います。

FN「バカ」:涙を意味します。一方でシオンへの大路にある者は、神の中で強められます。もう一方で彼らはサタンによって反対され、サタンは彼らが迫害に苦しむようにします。サタンによって引き起こされる問題と迫害は、大路を涙の谷とさせます。

詩篇84:6の前の雨はその霊であり、その霊は私たちの祝福です。これは煙台にいたある兄弟の状況でした。彼は主イエスを信じる前、回教徒でした。彼は救われて召会生活の中へと入って来た後、激しい迫害に遭いました。この迫害は彼を殺すばかりになり、彼は多くの涙を流しました。しかし、これらの涙は泉となりました。その泉は前の雨としてのその霊となりました。その結果、この兄弟はとても生かされたのです。

私たちが人に対して正しい心遣いを持つ限り、彼らの救いのために神に用いられるよう資格づけられる途上にあります。これについてのとても良い証しが、「見たこと聞いたこと」という本の中にあります。その本の中で、著者ジェームズ・マッケンドリックは、一言も言わずに未信者の群れの前に立って泣くことについて告げています。それにもかかわらず、多くの人が救われました。なぜなら、彼には深い心遣いがあったからです。雄弁、賜物、力は、決して彼らに対するあなたの心遣いほど、深く人に触れることはできません。

私たちが親密な心遣いを持つなら、人に対して柔和であるでしょう。粗野で、鈍感な人には、親密な心遣いはありません。もし夫が妻に対して正しい心遣いを持っていないなら、彼女にとっても厳しく、要求があるでしょう。しかし親密な心遣いを持つことは、彼を柔和にするでしょう。いったん私たちが柔和になると、私たちの話し方は柔らかく、甘くなるでしょう。

母親は子供に対して愛を持つだけでなく、深い心遣いを持っています。…ある女性は教養に欠けているかもしれませんが、子供に対する深い心遣いを持つなら、良い母親となる資格があります。もちろん、知識や才能は助けになりますが、それらは必要条件ではありません。良い母親であるための唯一の必要条件は、心遣いです。召会の顧みについても同じ原則が当てはまります。長老は召会を愛するだけでは十分ではありません。この愛は深い心遣い、すべての若い人や弱い人に対する心遣いとならなければなりません。この心遣いは、私たちの労苦を実のあるものにします。

適用:新人、青少年/大学生編

新人及び若い学生の皆さんは召会生活の中に入って来るとき、一方で神からの祝福があり、他方サタンからの反対や試練があります。決して良いことばかりがあるわけではありません。しかし、試練は信者にあるだけでなく、すべての人にあります。どうか覚えてください。あなたに対する試練には、**(1)**そこから出る道の備えがある、**(2)**涙の泉はその霊の祝福の泉になる、**(3)**神の慰めを経験し、他の人を慰めて、召会を建造することができる、という積極的な目的があります。神はサタンをも用いて、あなたを成就し、召会を建造することができます。

Iコリント10:13 あなたがたに臨んだ試みで、人の常でないものはありません。神は信実であって、あなたがたが耐えられないような試みに遭うことを許されません。むしろ、あなたがたがそれに耐えることができるようにと、その試みと共に、出て行く道をも備えてくださいます。**IIコリント1:3** ほむべきかな、私たちの主イエス・キリストの神また父、慈しみの父、すべての慰めの神、**4** この方は、私たちのすべての患難の中で、私たちに慰めてくださいます。それは、私たち自身が、神によって慰められているその慰めを通して、あらゆる患難の中にいる人たちを、慰めることができるためです。

パウロは「多くの患難と心の憂いから、多くの涙をもって」(IIコリント2:4)、コリント人に手紙を書き送りました。あなたは試練と涙を通して、他の人に対する心遣いができるようになります。福音において、召会生活の牧養において、夫婦の関係において、子育てにおいて、もしあなたに親密な心遣いがあれば、それらは祝福されます。**IIコリント7:3** 私がこのことを言うのは、あなたがたを罪に定めるためではありません。なぜなら、前にも言ったことですが、あなたがたは私たちの心の中にあり、私たちと共に死に、共に生きるに至るからです。パウロの表現は柔和であり、親密な心遣いに満ちていたので、力と衝撃力があり、信者たちに深く触れることができました。

新人の姉妹の証:三宮地区が昨年末に始まり、福音開展の時、大安亭商店街で日系ペルー人の姉妹に出会いました。彼女はすぐに召会生活に入ってきました。彼女は職場や近所で出会った友人に、強い福音の負担を持っています。特に外国から来た友人たちに負担があります。彼女の経験から、彼らが言語の面や生活面で困っていることがたくさんあることを知っているからです。姉妹は、彼らが救われるために、親密な心遣いをもって、また多くの涙をもって祈ります。また祈るだけでなく、自分の家を開き、彼女たちの必要を顧みるために、相談にのったり、家に泊ませたりしています。今年になって職場の2人の友人がバプテスマされました。姉妹の親密な心遣いと多くの涙を伴う祈りは、私たちの福音と牧養の模範です。

祈り:「おお主イエスよ、エレミヤのように霊的な感情をもって、思いやりを持ち、涙をもって神に仕えることを学びます。召会生活には神からの祝福がある一方で、他方サタンからの反対や試練もあります。しかし私は、試練から出る道の備え、涙の泉がその霊の祝福の雨に変えられること、苦難の中で神の慰めを経験することができます。これらの経験を通して、親密な心遣いを持って6種類の新人を顧みます。私を、召会を建造するパイタルな人、勝利者にならせてください。アーメン!」